

ウニやヒトデを用いて卵成熟と受精の仕組みを探ろう

担当: 経塚 啓一郎

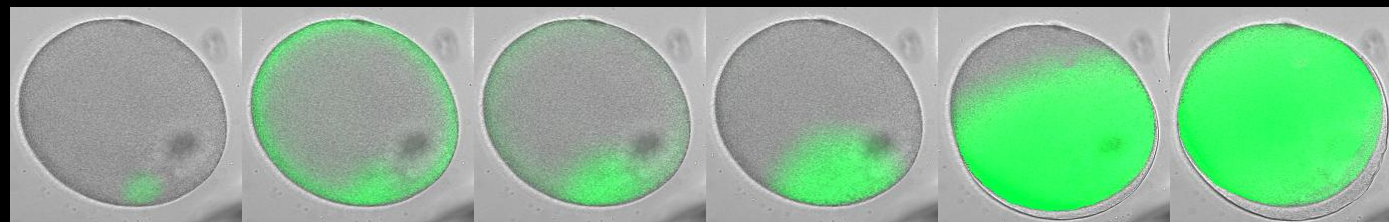
実施期間: 8月21日(土)-25日(水)

実施場所: 浅虫海洋生物学研究センター

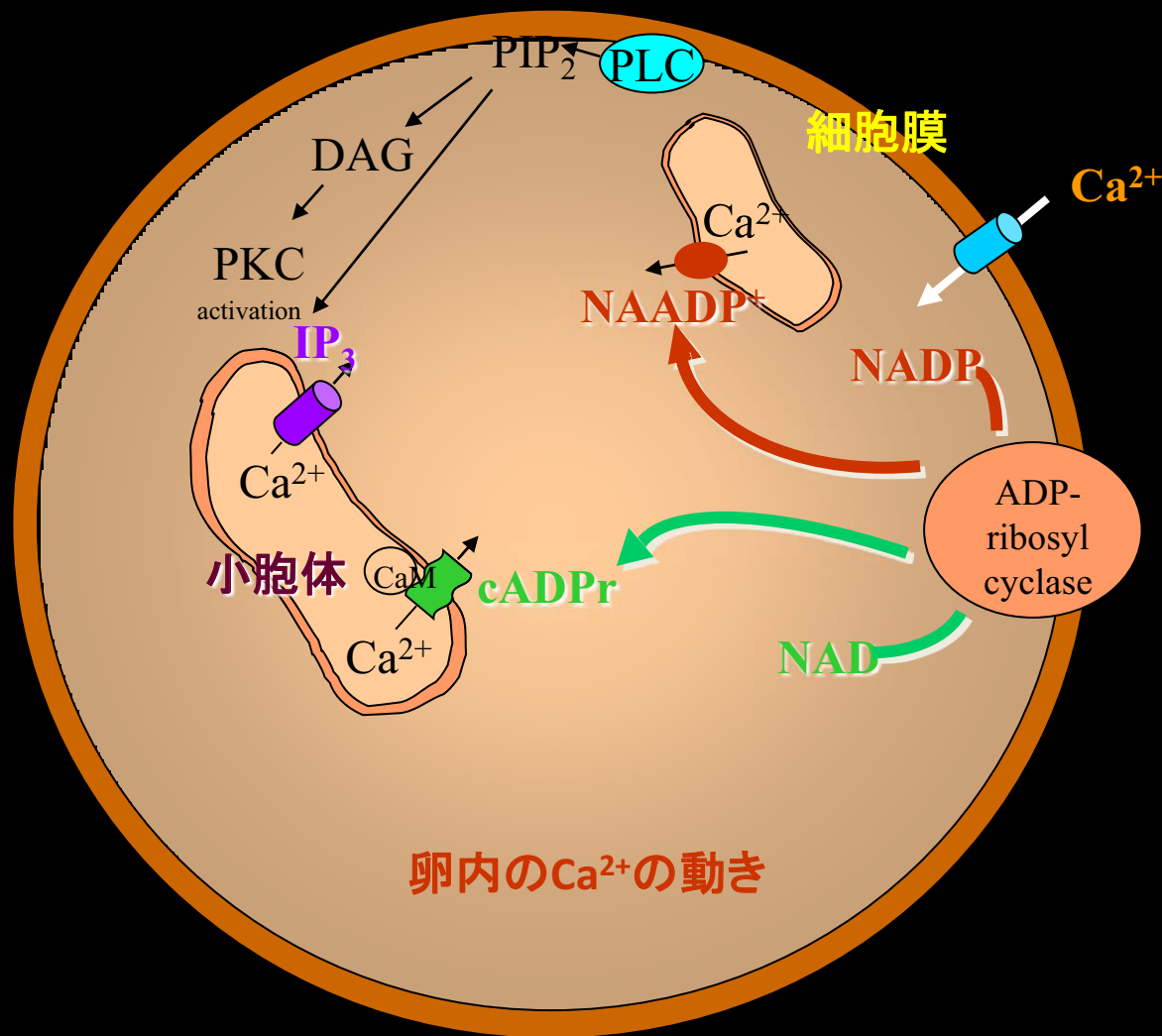
研修内容

1. 雌の卵巣内の卵(母細胞)は、どのようにして受精発生する能力を獲得するのか—卵成熟誘起ホルモンの作用とその過程に働く因子をヒトデ親の神経から抽出します
2. 受精すると卵はどのようにして発生を開始するのか—受精時の卵内カルシウムイオン変化を測定し、その意味を考えます。
3. 実験に必要な顕微注射技術、卵内カルシウムイオン変化を視覚化するための画像解析技術を習得します
4. 昼の海で藻場に住む小さなクラゲたち、夜の海でウミホタルなどの採集及び観察を行います

センター周辺のヒトデたち



受精時の卵内Ca²⁺変化



採集されたクラゲたち



日没時、センターの窓から